

東京五輪・パラリンピック大会をめぐる汚職事件が深刻な広がりを見せていました。4日には出版大手KADOKAWAの角川歴彦前会長が、大会組織委員会の高橋治之元理事への贈賄罪で起訴されました。すでに紳士服大手AOKIホールディングスの青木拡志前会長も起訴され、広告会社・大広の役員らも逮捕されており、スポンサー契約に関する疑惑は底なしです。なぜ不正がまかり通ったのか。五輪の運営にあたった組織委員会とともに、国策として五輪を推進した政府の責任も免れません。

10/7 五. 23

主張

拡大する汚職

ルートで計約1億4200万円となりとされます。これ以外に、駐車場大手パーク24の本社も強制搜査されました。パーク24の社外取締役は組織委員会特別全員で日本オリエンピック委員会前会長の竹田恒和氏です。同氏は6月、地検特捜部に参考人として任意聴取され、高橋元理事が理事に就任した経過などを聞かれたと報じられています。組織委員会長の森喜朗元首相です。

見舞いの外で200万円を渡して  
たと供述したと認定されました。  
吉田大手・鶴通常務の時やビズボ  
ンヒジネスを手掛けた高橋元理事  
は、海外要人だけなく、日本の  
政府にも広い人脈を持つとされま  
す。電通を退職した高橋元理事が  
このよみがえ経済で組織幹理事に起

れる精緻的な体質を有ります。これが一つが、透明性を欠いた選舉です。五輪の收支について公表するには全体像で、具体的な中身だけでは、「正直」の基準と終始しましたが、組織費はなぜか解散しあつたが、組織と関わる契約書などを公開す

持つてしました。組織運営にかかる必要な資料を全面公開させ、機構の仕組みや運営方法を徹底的に検証することが欠かせません。

橋元理事が理事に就任した経過などを函されたと報じられていました。組織費元会長の森昌朗元首相も任意の事情聴取を受けました。

り立つられ、組織委の中でもなんら役割や権限を持っていたのか。政治家とのかかわりはなかったのか。腰抜けでできない問題です。

高橋元理事の受託収賄容疑は、彼社のボンサンサー契約なしに關係あるのです。不正行為を許した背景として、組織委ものが抱

職の温床にならなければ余計な職はありません。

組織委は「ガバナンス改革」を掲げましたが、形ばかりでした。ボンサンサー契約なしに組織委が仕切つていたのは監査の出向料で、監査が進むべきを止める部局で、橋元理事はそこに大きな影響力をもつて

の信頼は失墜してたり。2030年  
年齢五輪招致をする大運ではあ  
りません。